



ビルの窓についている、赤い三角マークは、何なの

消防隊が進入するための目印

ビルの窓を見ると、赤い三角マークがついているのに気づくことがありますね。このマークは、消防隊がそのビルに進入するための場所を、示しています。つまり、ビルで火事などが発生した場合、消防隊は、ビルの外側からはしごなどをかけて、目印となる三角マークにたどりつき、この窓をこわして、ビルの中に進入するのです。

ですから、三角マークがついた窓は、消防隊が、こわすことができる材質でなければならない、と規則で決まっています。これらのことは、建物の規模、建物の使われ方に応じて、建築基準法という法律で決められているのです。

この三角マークは、わたしたちの生命や財産を守るための、重要な目印であるともいえますね。

一定の規模の建物には、三角マークはついていない

高さが31メートルをこえる建物には、非常用のエレベータをつけなければなりません。この非常用エレベータがあれば、窓に三角マークをつける必要がありません。

しかし、建物の高さが31メートルまでで、3階以上の建物には、この三角マークをつけなければいけません。

つまり、三角マークが見られるのは、高さが31メートルまでの、中高層ビルだけなのです。（監修・青木 国夫）

